2024年度　秋季英米文学科講演会のおしらせ

日時：　　11月12日（火曜日）　14時開場、14時30分開会
場所：　　板橋キャンパス　多目的ホール
講演者：　　柴田元幸先生（東京大学名誉教授、翻訳家）
講演タイトル：「マーク・トウェインの子孫たち　アメリカ文学・古典と現代のつながり」

＊ 当日は、入場の際に受付で「2024年度秋季英米文学科講演会　出席証明書引換券」を受け取ってください。講演会終了後にこの「引換券」を受付に提出して、「2024年度秋季英米文学科講演会　出席証明書」を受け取ってください。

【講演内容】
今年刊行されたアメリカの小説でもっとも話題になった作品のひとつに Percival Everett, *James* がある。『ハックルベリー・フィンの冒険』を逃亡奴隷のジムの視点から語り直した物語である。このように、現代作家が古典を「書き直した」例はいくつか見られ、その多くは『ハックルベリー・フィン』の「書き直し」である。それらを検討することを通して、『ハック・フィン』あるいはマーク・トウェインが現代から見てどういう問題をはらんでいるのか、またもっと一般的に、「アメリカ文学」の古典と現代作品はどのようにつながっているのかを考えてみたい。

【柴田元幸先生　プロフィール】
柴田元幸（しばた・もとゆき）　1954年生まれ。東京大学名誉教授、翻訳家。ポール・オースター、スティーヴン・ミルハウザー、レベッカ・ブラウン、スチュアート・ダイベックなどアメリカ現代作家を中心に翻訳多数。訳書にジョナサン・スウィフト『ガリバー旅行記』、マーク・トウェイン『ハックルベリー・フィンの冒けん』、エリック・マコーマック『雲』など。著書に『アメリカ文学のレッスン』、編著書に『「ハックルベリー・フィンの冒けん」をめぐる冒けん』など。講談社エッセイ賞、サントリー学芸賞、日本翻訳文化賞、早稲田大学坪内逍遙大賞を受賞。文芸誌『MONKEY』日本語版責任編集、英語版編集。